

平成28年度第3回中原区区民会議

日時 平成29年1月26日（木）14：30～

場所 中原区役所5階 503会議室

午後 2 時30分 開 会

出席者：成田委員（委員長）、井上委員（副委員長）、橋本委員（副委員長）、安藤委員、伊藤委員、岩崎委員、内田委員、梅原委員、小野山委員、梶川委員、鈴木功士委員、鈴木晴美委員、関口委員、中森委員、萩原委員、森委員、柳沢委員、山崎委員

【委員 18 名】

鈴木区長、高橋副区長、池谷担当部長、永山部長、大塚所長、三富課長（浅川副所長代理）、南担当部長、高津所長、村田担当課長、鈴木企画課長、小栗担当係長、塚本担当係長、中野職員、澤村職員、山口職員

【事務局（中原区役所）15 名】

岩下【コンサルタント（株）カイト） 1 名】

1 開会

司会 それでは定刻になりましたので、ただいまから、第 6 期第 3 回中原区区民会議を開催いたします。私は、本日の会議の議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます副区長の高橋でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、過半数の委員に御出席をいただいておりますので、川崎市市民会議条例第 6 条第 2 項の規定により、本会議が成立しておりますことを御報告申し上げます。なお、本日の会議は、会議公開条例に基づき、公開で行われます。また、会議録を作成し、公開することとなりますので、御了承をいただきたいと存じます。

また、本日、児玉委員、田邊委員につきましては、所用により欠席との御連絡をいただいております。また、梶川委員、鈴木晴美委員は、遅れて出席いただけるとの御連絡をいただいております。それから、参与のほうですが、押本参与、末永参与、原参与、吉岡参与、川本参与、君嶋参与、滝田参与につきましては、所用により欠席との御連絡をいただいております。また、市古参与、大庭参与、川島参与、松井参与、松原参与は、遅れて御出席をいただけるとの御連絡をいただいております。

それでは、中原区長の鈴木より御挨拶を申し上げます。

区長 皆様、こんにちは。中原区長の鈴木でございます。本日はお忙しい中、大勢の方にお集まりいただきまして、ありがとうございます。また、今、副区長からも参与の方について出欠の動向のお話がありましたけれども、重富参与は、今日お見えになっていまして、本当にお忙しいところありがとうございます。この場をかりて感謝を申し上げたいと存じます。

また、本日は年明け初めての区民会議ということでございますので、1 月も終わりに近づきましたけれども、私のほうからも、皆様にはことしもどうぞよろしくお願いしたいと

いうことを、改めて申し上げたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

また、今期の区民会議では、「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」ということをテーマに御議論いただいておりますけれども、年明け、いろいろなところで、賀詞交換会ですとか、新年会のようなものがありまして、その中でも川崎の福田市長は、年頭の御挨拶といった中で、防災についてお話をされる機会が多くて、具体的に申し上げますと例えば、近年地震や風水害が頻発していて、市として安全な避難・輸送ルートの確保や公的な備蓄内容の見直しなど、さまざまな取り組みを強化していきたいと。またあるいは、市民の皆様が防災意識を高めて備えることが大変重要ですので、町内会・自治会などへ加入して、参加することによって、日ごろから地域で助け合う体制を整えていただくことを強くお願いしたいと、そういったような言葉でお話をされております。まさに、今期の中原区の区民会議のテーマとぴったり一致をしているものとなっておりますので、この場の皆様のこれまでの議論を踏まえて、さらにそれを一步先へ進めた議論ということで、お願いをしたいと存じます。また、区といたしましても、皆様方の御議論を受けとめまして、区民会議発意の取り組みといったことを踏まえて、今後の中で進めてまいりたいと考えております。

結びになりますけれども、1月も終わりに近づいて、昨日も今日もですけれども、この昼間になると少し穏やかな天候ですけれども、朝晩はとても寒い日が続いておりますので、どうぞ御健康にはくれぐれも御留意いただきますようお願いいたしまして、この第6期第3回目の区民会議の冒頭の挨拶ということで、簡単ではございますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

司会 それでは続きまして、事務局より本日の資料の確認をさせていただきます。

事務局 では、本日の資料の確認をさせていただきたいと思います。冒頭、まず次第がございまして、別添1は席次表となっております、机の上に置かれていたかと思います。そして、別添2は名簿となっております、おめくりいただくと、資料1としてA3型の資料、続きまして、資料2としてA4を左肩でホチどめした資料がございます。その後、参考資料1として第1回第6期中原区区民会議課題調査部会会議録、参考2といたしまして第2回第6期中原区区民会議課題調査部会会議録、こちらは申しわけございません、日時が平成28年12月8日の木曜日でございます。修正をお願いいたします。続いて、参考資料3といたしまして第2回第6期中原区区民会議運営部会会議録となっております、こちら申しわけございません、日時が平成29年1月11日、こちらは水曜日でございました。訂正をさせていただきたいと思います。そして、参考資料4は横型のスケジュール、以上となっております。よろしくお願いいたします。

司会 資料のほうはよろしいでしょうか。それでは、ここからの進行は成田委員長にお任せしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2 会議録確認委員の選任

成田委員長 それでは、ここからの議事は、私のほうで進行を務めさせていただきます。

新年初めての区民会議ということで、今年の元旦は多摩川べりから、それは見事な初日の出を拝むことができたんですが、そうした穏やかな晴天の中で今年1年が始まりましたが、世の中の流れが速くて、私たちの身近なところでも、日々変化を感じている今日です。この区民会議におきまして、その変化をキャッチしながら、さまざまな課題を皆様方とともに、今年1年また考えていけたらいいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず会議録確認委員の選出をしたいと思います。前回、岩崎委員と内田委員にお願いいたしましたので、名簿の順番で、今回は梅原委員、それから小野山委員のお二方をお願いしたいと存じます。よろしいでしょうか。それでは、よろしくをお願いいたします。

3 議事進行

成田委員長 では、早速議題についての審議を進めてまいりたいと思います。まず初めに、第1回及び第2回課題調査部会の報告、続きまして、第2回運営部会の報告を受けまして、審議テーマ「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」に向けた取り組みの審議経過について、議論したいと思います。

初めに10月31日及び12月8日の2回にわたり、課題調査部会におきまして、審議テーマ「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」におきます課題解決に向けた取り組みについて、熱心に議論していただきました。

それでは、課題調査部会の審議結果につきまして、課題調査部会部会長でもあります井上副委員長から御報告をお願いしたいと思います。井上副委員長、お願いいたします。

井上副委員長 皆さん、こんにちは。副委員長の井上です。

それでは、前回、前々回と行われました部会の報告をさせていただきます。まず、昨年の10月31日、それと12月8日に、第1回及び第2回の課題調査部会を開催しています。各会議の詳細な審議内容につきましては、参考資料1及び2というのがございますので、こちらのほうで御確認をよろしくお願いいたします。ちなみに、第1回目の部会では、部会長、副部会長の選任を行いました。私とその部会長に、そして梅原委員のほうで副部会長に選任されましたので、ここで御報告させていただきます。

それでは、資料1、A3のこちらを、皆さん、ごらんください。

まず、第1回目の部会において、第1回、第2回の区民会議及び第1回の運営部会で出された審議テーマに関する全委員の意見を整理しています。それを踏まえ、第1回課題調査部会では、課題分野、この表でいうと一番左側の課題分野の確認を行いまして、その後、これは左から右に進んでいくんですが、課題、解決の方向性、取り組みの例や案とい

うものを審議しています。また、第2回の課題調査部会では、資料1の内容自体を深く掘り下げようということで、委員の方と話し合いを行っています。1回目の課題調査部会の審議である取り組みの例や案というものが具体化できたので、2回目に関しましては、防災に関する各個人の成熟度の違いから、取り組みについては、軽いものから重いものまでと幅広く取り組めることができないかという検討をしています。例えば、軽い取り組みというものに関しましては、防災初心者、防災というものの自体にすごく意識が低いという方には、まずやってみようという軽い気持ちで参加できるものやってみようという方を。例えば、イベントやお祭りで起震車を体験しようですとか、煙体験などをして、防災というのをまず意識してもらう、やってみようということをしてできないかということ。それと反対に重い取り組み、これは防災訓練などに参加した経験のある方には、行政側とかいろんな方面にかかわらずやっている防災の取り組みだけではなくて、自分たちで自主的に避難所の開設・運営訓練をしてもらうなど、レベルで分けて取り組みの検討をしています。また、既存の中原区役所の事業と関わるものがないかという検討もしています。

今後、第3回部会があるんですが、そちらの審議において、課題解決に向けた取り組みの提案の検討を進めていきまして、取り組み内容、実際の担い手、役割分担、進め方も含めて取りまとめを行って、第4回の部会における最終取りまとめを行っていくというのが、今後の流れとなっています。

1月11日に開催されました運営部会では、これまでの2回の課題調査部会における審議内容について、また、今後の部会における取り組みの議論や方向性などについて、今日の全体会議でどのような議論をしていくかということを中心として、御意見をいただいています。

したがって、本日の全体会議の審議におかれまして、今後の部会の審議を進めていく上で、議論の焦点、視点をどこに置くかということについて、皆さんには御意見をいただこうと存じております。

以上で、課題調査部会の審議報告を終了いたします。

成田委員長 課題調査部会の審議結果につきまして、井上副委員長より御報告いただきました。

次に、1月11日に開催しました第2回運営部会の審議内容につきまして、運営部会副部長である橋本副委員長に御報告いただきたいと思います。それでは、橋本副委員長、お願いいたします。

橋本副委員長 それでは、1月11日に開かれました第2回運営部会について、報告をさせていただきます。

まず最初に、課題調査部会の審議経過につきまして、課題調査部会長である井上委員から報告をしていただきまして、調査内容を確認させていただきました。会議の審議内容は、参考資料3の会議録でそれぞれ御確認いただけますので、後ほど御確認をお願いした

と思います。先ほど、井上副委員長からの報告にもございましたように、課題調査部会では、具体的な課題や取り組みなどについての議論が行われましたので、運営部会では、課題調査部会における審議経過を踏まえまして、今後の審議の方向性について、どのように今日の本会議上で審議していただくかというようなことを検討させていただきました。

それでは、資料2をごらんいただきたいと思います。こちらは、第1回、第2回課題調査部会で検討していただいた際の主な意見などをもとにしまして、さらに運営部会の審議において発言いただいた意見なども加えまして課題解決の方向性を示したものでございます。運営部会では、課題調査部会の審議内容を踏まえた上で、先ほど井上副委員長から話がありましたように、今日の会議で委員の皆様は何を議論していただくか等について、話し合いをさせていただきました。とりわけ審議の視点や方向性についてはどうか、例えばこの中で不足しているような視点や考慮すべき点はないのか、また意見の整理や提案の絞り込みに向けたポイントは何かなどについて議論していただくのも必要ではないかということで、重点的に審議をさせていただきました。

7つの提案に関しましては、提案の具体化に向けて課題調査部会及び運営部会の検討内容を資料2の課題解決検討シートの要検討事項としてまとめてございます。

それから、この中の2ページになりますが、マップづくりにつきましては、平成29年度で、中原区でこのようなマップづくり等を検討されているというようなことでございますので、そのような事業と連携した取り組みができないのかどうかという意見交換を行いました。

また、4ページの避難所生活体験・合同避難所運営訓練・イベント＋防災訓練の推進については、課題調査部会でも運営部会でも検討が深まったものでございまして、運営部会からの情報・意見欄にありますとおり、実施する場合の中原区の事業との連携等について、どういうふうにやっていったらいいのかということで議論を深めたところでございます。

5ページのリーダー人材の育成につきましては、中学生や高校生などの学生さんにも市民救命士を取得してもらえるような取り組みができないかという提案もいただき、検討させていただきました。

今後、引き続き、第3回、第4回の課題調査部会において、具体的取り組み、提案についての審議をいただいて、3月末には、取り組み、提案内容を決定していくこととなりますので、本日の会議におきましては、今後の議論の方向性や視点について、また区民会議の提案する取り組みとして、さらに実現性や実行する効果を高めるアイデアや手法などについて、皆様からアドバイスや御意見等をいただいて、今後の課題調査部会でそれをさらに深めてまとめていただきたい、このように考えております。

私からの説明は、以上でございます。

成田委員長 お気づきになられた方も多いかと思いますが、今回のテーマは、いわゆる予

期せぬ災害というものについて、どの面から、またあるいはどこまで深く捉えるかといった対象の範囲が非常に大きく、課題調査部会それから運営部会の両部会では大変幅広い審議をしていただきまして、その審議経過として、ただいまこの会議で報告をしていただきました。今回の資料内容につきましては、2月16日に第3回課題調査部会による審議を予定しておりますので、本日は資料2をもとに、今後の課題調査部会における審議の方向性や視点について、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思います。

実は、前回の区民会議で、審議テーマの中のユニバーサルとはどんな意味かということが会議の中で上がったかと思いますが、普遍的ですか、全てのという意味に込められた全ての人々に対してというキーワードを踏まえて、今回はどちらかといえば個別的、また具体的な枠を超えて、全体としての中原区という、ユニバーサルなまちづくりという視点からも考慮しながら考えていただければと思っております。

それでは、ただいまから御意見、御質問などをお願いしたいと思いますが、まずどなたか、トップバッターで御発言していただける方はいらっしゃいますでしょうか。

それでは、私のほうから、まず前回までの部会等に御出席していただけていない委員の方から最初に御発言をお願いしたいと思っております。まず最初に大変申しわけありませんが、安藤委員、エリアマネジメントとして、新しいコミュニティ関連の部分からの視点も入れて、御意見、御発言をお願いしたいと思います。

安藤委員 防災に関してということですね。高層マンションという形から言いますと、今実は、我々のエリマネでも、コスギ防災というのをマンションで配付しようという取り組みをしています。ちょっと高層マンションに特化したことをやろうと。それはちょっと簡単なことをまず3月ぐらいまでにやって、徐々に詳しくやっていこうと、今はその資料集めをしている状況でございます。まさにマップづくりに関しても、地域の今後の防災、地震とか、そういうのも起こり得ることもあるので、非常に重要な部分ではないのかなというのは感じておりますし、またほかの地区ではちょっとないんですけれども、中原区というのは、今、高層マンションと地域にずっと住んでいる方がどういうふうに関連して、地震が起こったときとか、災害が起こったときに対処するのかというのは、非常に重要なことだなと思っております。

実は今、中原消防署とか警察も、防災というか災害に関してすごく関心がありまして、警察の方も我々の防災ワーキンググループに参加をしていただきまして、いろんな情報交換をしようと、非常に積極的に我々のほうにも働きかけをしております。それで、我々も、実際に災害が起こったときにどこにどう対処するのかとか、どこに物資をなののかとか、その辺は避難所とかいろいろあるんですけれども、実際避難所のこととかも、今我々のマンションもいろいろと入ってはいるんですけれども、なかなか遠いとか、非常にこの辺の連携をどうするかとか、その辺の話もしております。こういった取り組みをするというのは、マンションのほうもそうですし、地元のほうでもすごく有意義ではないかなと思

っておりますので、我々の活動も含めて検討していくのが必要ではないかと思っております。すみません、突然だったもので、ちょっとまとまりのない話で申しわけなかったんですけれども。

成田委員長 突然のように振ってしまいましたが、皆様、特に2回にわたります課題調査部会の資料等を今初めてごらんになった方も多分いらっしゃるかと思いますので、もう1度確認ですが、資料2の課題解決検討シートをいま1つよくごらんになりながら、この中で例えば具体的に、先ほど井上副委員長からも話がありましたが、本当に災害について、軽いものから重たいものまでいろいろなパターンがありますが、その中で、特にどの部分を推し進めたいか、どういったところをもう少し補足して取り上げたいかという視点も踏まえながら、御意見をいただければ幸いかと思います。

それでは続きまして、岩崎委員、お願いできますでしょうか。

岩崎委員 部会で話し合われた意見と少しだけ重なる部分もあるかもしれないんですけれども、各企業とか町内会とか、いろいろなところでも防災の取り組みというのは、いろいろされているのかと思っていまして、その中でもしユニークな取り組み等があれば、それを何か紹介していくとか共有していくという取り組みは、少しおもしろいのかなと。今、広報というところを見ていて、そういうものも広報するべき事項の1つなんではないかというのは少し感じました。また、幾つか、地区の中とか隣同士の地区とかで、そういう取り組みを情報交換したり、またそこにある企業同士での情報交換とかをすれば、もしものときの助け合いをしていくようなネットワークの形成とかも、もしかしたらそういうのにつながっていくのではないかなと、少し感じました。

成田委員長 企業としての取り組みも含めて情報交換、情報共有の部分に視点を置きたいという御意見ですね。ありがとうございます。

それでは、青少年育成という立場もあるかと思いますが、続きまして、鈴木功士委員、よろしいでしょうか。お願いいたします。

鈴木功士委員 資料に全然目を通し切れていないんですが、わかったので質問していいですか。この会議録にあるコンサルタントの方というのは、岩下様、この株式会社カイトという名前が、どういう会社なのか調べようと思ったんですが、なかなかヒットしなかったんで、これはどういう方が進行してくださっているのかなという素朴な疑問なんです。

成田委員長 こちらにつきましては、事務局のほうから説明をお願いいたします。

事務局 区民会議全体の運営支援ということで委託をしております、岩下さんには今日も来ていただいて写真を撮っていただいておりますけれども、特に部会における議論の取りまとめですとか、ファシリテーションということで御協力をいただいている形になっております。

以上です。

鈴木功士委員 ありがとうございます。わからず質問してしまいました。引き続き、よろしくをお願いします。

そのほか、若輩者の意見としまして、まず災害で思い出すのが、元旦のメールかなと感じていまして、あれはある意味ネットでもすごくうわさになっていましたし、そういう連絡網はしっかりなっているんだなというのを、私としては安心した件なんですけど、そういうような最新の技術といいますか、そういうものもうまく組み合わせていければすごいいのかなと感じました。

あともう1点、去年のことなんですけど、せっかく災害として、ゴジラが中原区に来ていたので、何かうまいこと絡められないのかなと、単純な意見ですが感じました。ゴジラも海から来て津波のようなイメージで来たりとか、多摩川沿いを防衛戦としてやっていましたので、何かそういう意味では本当に災害にイメージがいくような内容だったので、せっかく中原区が取り上げられていたので、そういう部分ができればいいのかなと、勝手ながら思っていました。

あと、この内容についてはまたいろいろ見させていただいて、わからない点は質問させていただきたいと思いますが、私としては、あと避難場所が足りているのかというのが、一番災害では心配なことなので、そのあたりの資料もあればいただければと思います。よろしくお願いします。

成田委員長 後ほど、皆様方の議論の中で、そういった疑問点もあわせて活発に意見交換していただければと思っております。

それでは、続きまして右のほうに行きまして、森委員、お願いいたします。

森委員 私たちの地区では、11月の頭ぐらいに防災訓練という意味で、今井中のところでやったんですけれども、一応最初から予定してやりましたので、アルファ米のやり方みたいなのはわかっているうちでして、そしてどんなものが必要かということで、急遽、豚汁をつくったんです。豚汁も当日は切れないだろうということで、刻んできたり、そういうことをしたんですけれども、消防の人に言わせると、当日はとてもそんなことできません、すいとんの粉をやるくらいが精いっぱいですよ、豚汁なんかとんでもない、つくれませんと言われまして、大変勉強になりました、ああなるほどなと思ったんですけれども、まず身近なところで役員さんと、50名ぐらいですか、一応集まりまして、最初は経験だからということでやって、回を重ねていかなければいけないんですけれども、大変勉強になりました、ああなるほどなと思いながら終わったんです。

訓練という意味では、それから言うと大変だなと思いながら、町会の中でも1年1年かわっていきますし、常にそういうのを継いでいかなければいけないと思っております。町会に戻ってやるのには、年もとりますし、大きいお鍋を持ってきたり大変だなというのはあるんですけれども、中学が一応避難所なので中学生の手伝いとかもある程度必要になってくるのではないかなと思いながら終わりました。ありがとうございます。

成田委員長 いわゆる経験の積み重ねと実際の避難所運営に関しての担い手の不足といったものを感じていただいたということで、ありがとうございます。

では続きまして、柳沢委員、お願いいたします。

柳沢委員 商店街連合会としての取り組みは特にやっていないんですけれども、たまたま資料1の中原区の最近の取り組みなどで、私が理事長をしているモトスミ・オズ通り商店街の取り組みと書いてあるんですけれども、実は、うちの商店街は5年ぐらい前から防災に大変関心を持ちまして、というのは、5年ぐらい前に東日本大震災がございました。あのときに、御存じのように停電になりました。真っ暗になりました。そのとき信号もとまって道路交通なんかはかなり苦戦をしまして、電気がつくまで大分皆様が右往左往したのを多分覚えていると思うんですが、それをきっかけに私のオズ通り商店街では、防災まちづくりに力を入れまして、簡単に言いますと、私の商店街は本月2丁目の町会がありまして、町会さんと商店街と一緒に防災訓練でもやろうかということで1回やりました。実は、平和公園がちょうど避難地域になっていますので、そこへ町会さんと商店街の組合員さんが一緒になって出向いて、中原消防署さんをお願いして、震災の起震車に来ていただきまして、耐震の経験だとか、避難の仕方だとか、あと消火器の使い方だとか、そういうことをまめに教えていただきました。

また、そのほかに、いざというときにAEDが例えば元住吉だったら駅にあったり、商店街ですと銀行だとかパチンコ屋さんなんかにもあるんです。あと歯医者さんだとかいろんなところにあるんですが、いざ使うことになると、実際にやってみないと簡単にいかないんですよね。私どもの商店街でも一応、商店街組合員を対象にAEDの講習会をやったり、近隣の商店街に隣接している町会の人を対象にAEDの講習をやりました。それで、ここに載っているように、市民救命士は一応皆さん持っているんですが、これもやっぱり2年ごとぐらいで書きかえないといけないということで、これからまた徐々に、災害は忘れたころにやってくるではないですけども、こういうことはずっと続くものですから、そういう訓練もやっていきたいなとは思っております。

それともう1つは、うちのエリアに木月小学校という小学校があるんですが、その小学4年生を対象に毎年、小学生が町の中で例えば災害に遭ったとか、交通事故に遭ったとか、あと急病で倒れている人がいた場合にどういう方法で商店街の組合員さんとかお店に助けを求めていくかという訓練を毎年1回やっております。もう去年で5回目をやって、小学生は毎年かわるものですから、そういうことを子どもたちに、例えば交通事故に遭った人がいたり、倒れた人がいたらどうしたらいいか、我々の個人のお店に飛び込んでいってという訓練なんですけど、意外に知らないのが、電話をしてください、どこへ電話というのが、119番というのがわからないんですよね。我々は119番というのは当たり前なんですけど、子どもは119番というのをまだ知らない子が結構いるので、ちょっと驚いたんですけども、そういう細かいことを一応毎年はやっているんです。うちの商店街はこども

110番といって加盟店約50店舗ぐらい、子どもたちが何か人に声をかけられたり、見知らぬ人に声をかけられたり、そういうことがあったら、そこのお店に逃げるといえるのか、助けを求めるという訓練もしております。

あと、各店舗に震災以来、充電の携帯ラジオ、ろうそくを各お店に備えるようにしました。また、各お店には災害耐震指針というんですか、当たり前のことなんですけれども、地震で揺れ始めたらガスを消すとか、結構火のもとを使っているお店が多いもので、とっさに火のもとを消すとか、そういうことについての訓練はここ5年間ぐらい大分やっているんですけれども、これからはずっとやらなければいけない事業かななんて思っております。うちの商店街はたまたま昨年、防災まちづくり大賞をいただいたもので、ちょっと簡単に披露させていただいたんですが、商店街としてはそんなように対応をしております。これが各商店街に普及していただければ、地域と商店街と一緒に取り組んでいただければいいかなと、そんなふうに思った次第です。

成田委員長 また、新しい視点としまして、商店街と地域との連携、それから子どもたち自身がみずからアクションを起こして、助けを求めるという子どもの視点に立った災害時の取り組みといったような部分を今ちょっと御披露していただきまして、大変参考にさせていただきます。ありがとうございます。

それでは、山崎委員、お願いいたします。

山崎委員 私は、本当にいろいろなところでの防災訓練には参加したこともないような全く個人の市民なんですけど、やっぱり自助というところは個人的に必要なだと思っています。自分のうちで、いかにまず家族の分の食糧、水をそろえておけるかとか、そこら辺のところは、やはりここの中にちょっと出ていない部分だったので、必要ではないかなと思うし、結構取り組みやすい部分ではないかなと思っています。例えばローリングストック法なんかは、とても身近に説明がしやすいので、商店街でも何カ月にも1回かえましょうねみたいな、何月何日に買った人はそろそろかえどきですみたいなポップを1つ付けてくださるだけでも、そうか、うちもそろそろかえどきかな、ローリングストックするときかなみたいな意識づけを、お買い物の中で自然とできるような、そんな取り組みもいいかなと思っています。自助として、やっぱり少し視点を入れていただいたほうが、私は取り組みやすい部分ではないかなと思います。

例えば、区役所のほうに逃げるときに一体何を持っていきますか。防災ピクニックというのがあるんですけれども、簡単にできるので、そんな取り組みもおもしろいかなと思っていて、区役所のほうに逃げるとき何か持ってくるものがあったら持ってきてくださいと。これは情報弱者に対して、情報を出しても出してもだめな場合は、やっぱり実際に動いてもらって知ってもらおうということだと思うので、町内会の方たち、誰でもいいのでここへ来てピクニックしていただいて、何を持って逃げてきましたというのを1つずつ見ていくんですね。そうすると、とんでもないものを持ってきた、眼鏡は忘れてきました、入

れ歯も忘れてきました、それではちょっと逃げてもしようがないよということを、実際情報弱者と言われる方たちに教えていくことができるような取り組みもあるので、市民として企画できるのではないかなとちょっと思うので、いかがかなと。これはちょっと具体的な発案になってしまうので、検討いただければなと思ったところです。

ローリングストックについては、私は食生活改善推進員なのですが、よくいろいろなところで取り組みさせていただいて、会員さんたちはローリングストックについては随分知識があると思っていますし、それをどうやって使っていくかということも覚えていけると思います。缶詰を日ごろどうやって食べるかとか、いざ災害のときはどうやって食べるかとか、そんなような具体的なこともちょっと入るようなイベントがあればおもしろいなと。私はイベントが好きです。イベントをやっていたらなと思っています。

成田委員長 災害についての意識づけという点では、自助という部分をどこまで皆さんが踏まえているか。実際に東日本大震災のとき、震災後すぐにスーパーから物がなくなったということで、それを見てもわかるとおり、いざ事が起きてから初めて行動に出ては遅いという、何か起きてから初めて気がつくのではなくて、やはり日ごろからの備えが大事だということで、前回の会議でもそこから、多分話が始まったかと思いますが、実際に関心はあるが知識がないという方と、もとより関心がないという方、その部分をどうやってすり合わせしていくかということも、恐らく課題調査部会のほうでは議論に上げられたと思います。

ここから皆さんにまた広く意見を伺いたいと思いますが、その前に課題調査部会の部長であります井上副委員長に、ここまでの皆さんの話を聞いた上で御意見をいただきたいと思うんですけれども、いかがですか。

井上副委員長 あまり大それたことは言えないんですけれども、まず皆さんに謝らないといけないのは、今まで進めてきた課題調査部会と運営調査部会の要は何を話してというところは、ざっくりしか言っていないくて、本当にここの区民会議のところで何を話さないといけないかというのが、皆さん、いまいよくわからないんじゃないかなというのが今現状なのかなというのを、聞いていて思いました。実は、前回の区民会議のときには皆さんの御意見を伺っていて、その上で何をやっていこうという部分を課題調査部会と運営部会で話してきました、その上で今、成田委員長が言っていたのは1つは自助という、自分で災害に遭ったときに自立して動けるように、要は自分を自分で助けなさいという意識を皆さんに持ってもらうのがいいんじゃないかというところは、最後の運営部会には出ています。

その上で、それを啓発していくという、広く皆さんに意識を持ってもらうために何をやっていくのかというところで出たのが、課題解決検討シートという手法になっています。そういった意味で成田委員長から、これを見ていただいて、自助という枠組みの中でこういうことをしたほうがいいんじゃないかというのが、この中に反映されています。なの

で、皆さんのほうでも実際にこの中でいろいろ、1つは啓発という意味と並んでPRですよ。それと、何を伝えないといけないのか。自助として、自分で助けて動くためには情報を入れないといけないので、ではマップをつくろうとか、あとは実際にそういう経験した方の意見を聞こうという場をつくって、もっと災害の意識を持とうではないかという。これは逆に言うと初心者の方、さっき言った軽いものから重いものという話が出たんですけども、ある程度重いもの、要は災害の意識がすごく高い方たち向けにさらに深い知識を持っていただこうというのをやったほうがいいんじゃないかというところですよ。

次のものが避難所の生活体験、これは先ほど山崎さんからも出ましたけれども、要はまずは興味を持ってもらってイベントをやったりして、そういったところで皆さんが、自助というものを、災害というもの、もろもろを含めて自分の生活、自分の意識の中に入れていったらいいんじゃないかということで、企画というか提案として出しているものです。これは町のイベントのところに簡単に言ったら乗り込んで、そういう災害という要素を入れていってやってもらおうというものになっています。

次はリーダー人材の育成というものになるんですけども、これも先ほど言った重いものに当たります。より災害に対して興味を持っている方に意識づけをしていただこうということで、こういう資格を設ければ、さらに意識が高まるんじゃないかというところで提案されているものです。

最後になりますけれども、安否確認・管理体制の強化というところは、初めの提案に戻りますけれども、情報というのをどうやって自分たちで取り込んでいったらいいのか、どういうところから流れてくるんだということをもう少し強化すれば、自分たちの生活の中で災害の意識がもうちょっと高まるんじゃないかという観点で、全て書かれています。

ほんのちょっと皆さんにざっくり意見はいただいたんですけども、この中で今後進めていけないといけないのは、この中から皆さんの意見を反映させて絞ってはいるので、そういった上でこれをやっていこうという意見が出ているので、この中から、ではこれをぜひやりたいというものを皆さんから聞いていっていい段階にはなっていますので、見る時間もないという方もいらっしゃるんですけども、今言った説明の中で、ちょっとでもキーワードとしてひっかかっているものがあったら、その資料を見ていただいて、その上で意見をいただければと思いますけれども、それでよろしいですか。

成田委員長 非常に丁寧な補足をいただきまして、ありがとうございました。

それでは、ここである程度絞っていきたいということもありますし、今まで出た中では、どちらかというと体験重視、それからどこまで情報のPRを進めていくか、そういった点に恐らく絞れてくるかと思いますが、ここからはできるだけ皆さんの挙手による御意見、御発言をいただきたいと思いますが、どなたかいらっしゃいますでしょうか。では、山崎委員、お願いします。

山崎委員 一番最後の、安否確認の無事ですカードは、とてもいいなと思います。いざと

なったら、避難所は絶対にいっぱいになっちゃうと思いますから、避難場所をきちんとどこにいますよと置いていけるようなカードを皆さんがお持ちであれば、すごくいいなと思いました。

それからマップなんですけれども、1冊ずつ各家庭にあっても、いざ災害が起こったときにそのマップを出してくるようなことでは余りどうなのかなと思ったので、できたらいろんなところに張っていただけると……。例えば、区役所の入り口に張ってあるとか、それからこども文化センターのところに張ってあるとか、会館に張ってあるとか、市民館の入り口に張ってあるとか、ちょっと目につくように一生懸命に張るということを情報発信のほうでやってみたらどうかなと思うんですけれども、いかんがでしょうか。1冊ずつつくというのは、本当にお金もかかるし、個別配付なんてとても難しいと思うので、なるべく張っておくというのが……。それで、絶対にここまで水が来るよみたいな、そんな怖いことを言うと、みんな嫌がるんですけれども、例えば避難所がありますとか、避難所までの経路がわかるとか、そういう程度のものをどんどん掲示板に張っていくとかしていただけると、いつでも見られるという状態がいいなと思います。

成田委員長 たしか運営部会でも、そうしたような誰でもがすぐそこにあるものを見られるようにということで、例えばコンビニに置かせてもらったらどうかという意見等もありましたけれども、実際に実施に向けてなかなかいろいろ課題もあるかというところですが、そういう方面からも引き続き進めていきたいということですね。

山崎委員 ともかく、冊子にすると見ないですよ。

成田委員長 確かに保管してしまうと、いざというときは出せませんし、一家に1つというよりは、1人1人に1枚ぐらいでもいいかなというのは確かにありますね。

ほかにはいかがでしょうか。では、萩原委員、ここまでの議論でいかがですか。

萩原委員 本当に具体的に入っていくかといけなかなという点では、この中では、やっぱり子どもたち、商店街、企業、町会、いろいろあわせた形での防災のまちづくりフェスみたいなことは、どこかでやっていただきたいな、やりたいなと思いますし、マップづくりはそれが冊子でないとしても、ぜひ防災に関するマップづくり、中原に関してもうちょっと突っ込んだ情報を盛り込んだり、あと英文字入れたりする、そういうのをぜひつくってほしい、見たいなと思いました。あとは、底上げするという点では、市民救命士を中心として、中高生ぐらいから市民救命士をどんどん取りましようみたいな仕組みができればいいなと思っています。

以上です。

成田委員長 今の御意見に関しまして、どなたかありますでしょうか。では、鈴木功士委員、お願いします。

鈴木功士委員 先ほどのマップを張る場所でちょっと思い浮かんだのが、中原区の強みとして、商店街が活発的なのと、お店がすごくたくさんあるので、お店の個室トイレに張る

ととてもいいかなと。お店の方も、お客様を守らないといけない立場にもなりますので、そういう部分でリーダーになっていただくような説明をしながら、お店のトイレに張っていただくと結構いいのかなと。実際に災害が昼間に起こったときに、商店街と学校がかなりパワーがあるのかなと感じたので、まず商店街はそういう意味で個室トイレに張るのがいいかなと思ったのと、あとちょっと話が違うほうに行ってしまうんですが、リーダー人材の育成のところで、これも中原区の強みで、少子高齢化の逆を行って子どもがふえているというのも中原区の強みですので、中学校も西中原中学校が全国で多分一番人数が多いと思うので、そういうような強みを生かして、このリーダーの育成も中学生を中心にやると、年々リーダーがふえていくような、夢のようなものができるのかなと思います。

以上、意見です。

成田委員長 今の、商店街でのマップの掲示というところで、柳沢委員、いかがでしょうか。

柳沢委員 私も賛成です。中原区商店街連合会は24団体があって、1200名弱の会員がおりますので、もちろんそちらを利用して、お店の店頭にそういうのを張るとするのは、賛成はします。それともう1つは、各商店街に、ちょっと大きな商店街と言うとあれなんですけれども、街頭放送というのがあるんです。何かのときにそれを流すことができます。緊急の場合、例えば迷子さんが出たとか何かそういう場合に、大いに街頭放送を利用していただければ、各商店街の事務所なんかに行きますと、その装置がありますから、そういうのを利用してもらっても結構です。

例えばうちの商店街ですと、デジタルサイネージというのが、テレビ画面のちょっとでかいものが駅前にあるんです。あれで例えば、中原警察署の情報だとか、もちろんフロンターレさんの情報とか、イッツコムさんと提携して、そういう情報を常に流していますから、またそういう防災に関しての情報なんかがありましたら、積極的にうちのサイネージでも流すし、また、最近そういうサイネージを利用している商店街もありますので、ぜひ利用していただければよろしいかと思います。

あと、各商店街は、最近は防犯カメラをかなりつけているところがありますので、何かのときにそういう防災・防犯、安心・安全のまちづくりに、今、随分力を入れている商店街もございますので、ぜひそういうのも商店街にちょっと声をかけてもらえば利用できますので、ぜひ住民と協力して一緒に防災に取り組んでいけたらいいかなとは思っております。

成田委員長 啓発、広報という点で商店街の御協力がいただけるということで、これからの方向性によりパイプが太くなったという感じがしております。

ほかにいかがですか、関口委員、お願いいたします。

関口委員 今の商店街の関係もあるんですけれども、ここにたくさん団体さんが来ていますよね。そういう意味で団体さん独自でやっていることは結構多いと思うんです。例え

ば、きょう配られた資料2の一番下のところに、情報弱者は「認知症患者」も想定して云々と書いてありますよね。たまたま私の近くの町会で、玉川地区の社会福祉協議会で、2月1日に講習会をやります。これは災害時の認知症等災害弱者との接し方というタイトルで講習会をやりますよと。そのサブタイトルをすごく私は気に入っているんですけども、声かけとさりげない見守りで人に優しい町をつくりましょうと。まさに私が最初に言ったユニバーサルという横文字ではなくてというように、すごく合うような言葉ではないかなと思うんです。しかも、これは上平間の第一町内会館でやるんですけども、この講師が区役所保健福祉センターの保健師さんなんです。ということで、社協さんなり、いろんな団体さんが、こういうことを独自にやっているわけです。ですから、それをもっと区民会議とタイアップして、もっと皆さんに参加していただけるような取り組みをしたほうがいいのではないかなという気がすごくしたので、今日、実はこれを持ってきたんです。たまたまそういうことも書かれているので、やはりそういうところに力を入れていったほうが、災害が起こってからというのももちろん大切なんですけれども、起こる前、例えば糸魚川の火災を見ても、ちょっとしたことがああいいう大きな大火になってしまったわけです。ですから、いわゆる事前に、自助もそうなんですけれども、そういった形に力を入れていく。もちろん起きたときどうするかというのは、大変大切なことだと思うんですけども、それと同じようなウエートで、やっぱり事前の準備、そういった協力体制にしていくのが必要ではないかなと思います。

成田委員長 そういう意味では、ここにお集まりの皆さん、それぞれの団体の活動の中でいろいろなノウハウと蓄積がある。そういったものをもうちょっと共有しながら、そこに区民会議としてのタイアップという面も含めていきたいという御意見でした。

そのほかにいらっしゃいますでしょうか。それでは、実際に課題調査部会で御議論していただきました方々からもぜひ御意見をいただきたいということで、まず、伊藤委員、よろしいですか。

伊藤委員 やっぱりその立場立場で重要度が違ってくるかなと思うんです。ですから、どこに焦点を持っていくかが一番あれなんですけれども、私は町会の代表なんですけれども、町会でも全く関心のない町会もあるんです。ですから、避難所が小学校、中学校になっていますけれども、その避難所訓練でも町会が少なく参加している中学校とか小学校は避難訓練が割とうまくいくんですけれども、うちみたいに4つとかの町会が絡んできると、その調整が大変難しくなってきます。その町会によって温度差がとて開いているということがありますよね。その温度差をどういうふうにしていったらいいのかなということ。本当に関心のない人にはどうにもならないということがありますし、いかに関心を持っていただくか。一番は、災害があったすぐ後は団結心があるんです。ここ5年ぐらいたってくるとちょっとだらけてくるという、それは見ていてよくわかるんです。そのところもどうしていったらいいのかなということ、私は町会として常々感じていますけれ

ども。

以上です。

成田委員長 今あるコミュニティの成熟度といった点からも温度差というのをどうやって埋めていったらいいかというの、それもまた地域コミュニティを考えていく上で、外せない視点だということで、考えさせていただきたいと思います。

それでは、内田委員、お願いできますか。

内田委員 今まで、皆さんの多くの意見を聞きながら、本当にこれから起こり得るであろうという想定をされた中での備えを常にとという準備段階のお話をいっぱい聞かせていただきました。確かに1つ1つ必要なことを言われているだろうと思われます。また、言われた中では、私の知っている範囲では、いろいろそういう想定されたような冊子なりチラシなりは見受けることが多いですよというのが、1つ言えるかなと思います。私のほうは、皆さんが日ごろから備えましょうよという段階から、あした起きるかもしれない、今起きるかもしれない、もう既に余震は起きているかもしれないという立場から進めていければなと思っています。皆さん、もし何か、何かとはよくわかりませんが、災害という一くくりで言わせていただくと、ふだん皆さんも消火訓練、避難訓練というのは、これから参加する方、そして今参加されている方、そして経験された方、本当に少しでも早目に知ってほしい、体験してほしいと思っています。

自宅が避難所になるのが一番いいんだよとよく言われています。自分の家であれば、3日間の備蓄とよく言われています。何もしなくても3日間、要するに皆さんの冷蔵庫の中を探してみると3日ぐらいいはあるようなので、本当に3日間ぐらいを想定して備蓄していただくと、1週間はどなたも来なくても自分のお宅で生活できる範囲であれば、自宅がいいんですよ。そうすると、それと反対に壊れてしまった、住むところがない、ライフラインがないとなると、お近くの避難所開設というところを訪れるようになります。よく報道機関では体育館の中で、皆さんの生活のところが写っているようですけども、本当に炊き出しのいただける、にこにこしたところが写りますけれども、生活環境としては、隣の人との会話が板1枚なのか、段ボール1枚なのか、カーテン1枚なのか、体験してみると1日そこで過ごすというのは、かなり困難らしいです。そして、やはりいろいろそれを準備してくれる方がいらっしゃる。いらっしゃる方にお手伝いをするように皆さんもありませんかということを言いたい。お世話になるのではなくて、お世話をするほうになってくださいよ。消火訓練、避難訓練、結構です。そして、そこで開設をして迎え入れる役員の方、係の人がいるんですよというの、皆さんが感じてほしい。その方たちと優しく会話できる。よくおにぎり等を配られています。あれを見ていて、1個をとり合うのか、2個をとり合うのか、そうではなくて、1個自分たちの手元にあったら、それを半分ずつ分けられるような気持ちになってくださいねということをお願いしたいです。

先日も熊本市長の講演会がありました。聞くチャンスを受けました。あの市長さんが言

っていました。訓練のときには、庁舎からお迎えの車が来る。実際にあの熊本地震のときには誰も来てくれなかったそうです。やはり自分のうちも揺れて倒れて、一番最初に起き上がって何が起きたかという、足をけがしたそうです。真っ暗でわからない。そういう危機感をあおるなというふうに井上委員は言われたけれども……。

井上副委員長 言っていないよ、僕はそんなこと。

内田委員 事実、危機感をあおりたい。今起きますよ、今ここにいるときでも起きたら皆さんどうします。懐中電灯ぐらいいは持っていますか。まだ明るい。そういう気構えを日ごろ……。ハザードマップを見るのもいい。図上訓練もいい。でも、自分からというのを入りたいんです。市長さんが続けて言いました。やはり3日間ぐらい自分の家で何かあればいいなと思っている。そして言えることは1週間分は持ってくださいよ。地方から、特にこの川崎市からも支援物資が行ったんだそうです。でも、それは4日、5日後なんです。現実的にそれはどうなるかという、10トントラックがある一定の場所にずっと並ぶんだそうです。支援物資が来て、8時間、10時間待っているトラックの運転手さんの身になったらどうですか。それでも、福田市長も言っていました。今も、川崎市の職員の方が年間400人支援に行かれています。やはり大変なことが起きているわけです。その物資が来る時のところ……。

井上副委員長 内田さん、すみません、今お話はすごく大事なところを言っていたいてるかと思うんですけど、今の段階で言うと、この先ほど提案が出された中で、どれをやっていききたいかというところを示していただいて、それをちょっと話していかないと、なかなかこの審議が進まないの、大変申しわけないんですけども、そちらの方向にシフトしていただけると助かります。

内田委員 いろいろお話を聞いている中で、私のほうが進んでしまっているのか、後になっているのかよくわかりませんが、開設、避難のためのそれを皆さんが早く知って、早く参加して、早く開設するほうに行きましょうよ。さっき萩原委員が言いました、参加しましょう、私たちでやりましょうよということを言いたかったんです。

以上です。ありがとうございます。

成田委員長 おっしゃること、よくわかります。基本線は、まず自助の部分、その次に共助の部分の強めたいということで、それにはまず、ただいま参加しましょうとおっしゃられましたが、参加したいという意識づけをどうやって持っていったらいいかということで、結局この事前シートに戻りますと、PRもありますが、まずは体験型、実際に起こってからあたふたする前の体験というのを重ねたいというところにもつながってくるのではないかと考えさせていただいております。

続きまして、梅原委員、お願いします。

梅原委員 いろいろ今まで意見が出てきて、それでもう1回、2回と部会を開いて、それで最初いろいろな問題がいっぱい出てきたわけですね。それをだんだんまとめてきてこの

段階に来ているということで、方向性としては余り違ってないんじゃないかと思うんですよ。だから、これからテーマ絞りが必要じゃないかなと感じています。

災害が起こったらどうしたらいいかという話が内田委員からありましたけれども、ポイントは、例えば災害が人的原因で起こっているのか、あるいは自然で起こっているのかということで焦点が全く変わってくると思うんです。そのときに、例えば人的な災害が起こるとすれば、それを起こさないようにするにはどうしたらいいのかということがあるし、それから災害が起こった後にどうすればいいのかという2つの方向があると思います。そのときに、例えばこの区民会議が何に視点を置くかということになるかと、やはり広報が一番大事じゃないかと思うんです。だから、例えば興味がない人にも興味を持たせてちゃんと聞くと。そういうことで、実は広報に力をいっぱい入れたらいいんじゃないかという感じがします。

例えばマップづくりというのがありますけれども、これも1つの広報ですし、あるいはもし災害が起こってしまったときにどうだったかという経験者の話を聞くとか、あるいは避難所の体験をしてもらうとか、そういうときにリーダー、仕切る人を育てなければいけないのでリーダーをどうやって育てるかとか、安否確認とか、そういうことをするためにどうしたらいいかという広報が一番いいんじゃないかと思います。区民会議自身は余り予算がないですから、さっき重いテーマとか言われましたけれども、実際はできないんですよ。だから、やっぱり広報を一番ポイントに置いてやるべきじゃないかというのが私の意見です。

成田委員長 広く広報をするとともに、体験型のシミュレーションも組み合わせるようなイメージでよろしいでしょうか。

それでは、ユニバーサルな視点ということでは、特に外国人、外国籍の方とかそういった分野からの御発言がまだここに反映されていないと思いますので、中森委員、ぜひそういった多方面の中原区民という立場から御意見をいただきたいと思います。

中森委員 いろいろ皆さんの意見を聞いて重要な部分も結構ありましたが、まず興味がない方とか、全く参加していない方たちに向けて、ここにあるPRというのがすごく大事じゃないかと思って、全体的に皆さんに届くために、例えばそのPRの仕方を、ただ単にこっちから情報を発信するだけじゃなくて、皆さんが参加できるようなPRはどうかなと皆さんの話を聞きながら思いました。

例えば今、子どもとか若者はゲームが結構好きなので、PRとしてゲーム形式で、例えばマル・バツゲームで災害について必要なものとか、ゲームをしながら皆さんが参加できるやり方はどうかなと。それだったら全く興味がない人たちも画面に目を向けるんじゃないかと思いました。そこで簡単な言い方とか、映像とか、キャラクターを出して、余り文字がなくて、言葉は簡単な日本語を使うと、外国籍の方もそれに耳を向けるんじゃないかと、それだったら区民全員にそういう話が届くんじゃないかと思いました。

あと、とても大事で、同時に避難所についても、確かに起きる前にいろいろ準備とかしないといけないんですけども、起きた後でも、混乱しないために避難所の設置とか、そこで運営するためにも私たちもいろいろ準備はしておかないといけないので、そっちでも力を同時に入れないといけないんじゃないかと思って、実際避難所にあるものがきちんとあるかどうか、実際は小学校、中学校が避難所なので、そこにいる生徒たちも参加できる仕組みもいいんじゃないかなと。例えば昼間に地震が起きたら子どもたちはまだ学校にいるということで、その子たちも何か協力できるシステム、仕組みもできるといいなと思って、特に小学校は中学校より区内に多くあるので、小学校にいる小学生のせめて高学年の方たちは大分力があって、いろいろ興味もあると思うし、その子たちも協力できる仕組みを私たちも考えていかないといけないんじゃないかと、これを見て思いました。

それだと、学校にも外国籍のお子さんたちもいるし、一緒に動いたりするし、外国籍の方の中でも協力したいという気持ちの人が結構大勢いるので、避難所を設置するときにもいろいろ協力することもできると思うので、そういうのもいいんじゃないかと思いました。

成田委員長 イベントを通じての体験と子どもたちを巻き込んだ活動ということですね。

中森委員 そうですね。

成田委員長 それに関連しまして、鈴木晴美委員、同じくPTAという立場から御意見をいただければと思います。

鈴木晴美委員 遅刻しまして申しわけありませんでした。皆さんのお話を途中から聞かせていただいて、私的には子育て支援センターにいたとき、それから今も小さい子どもたちと一緒に接しているということで、支援センターでも避難訓練など行ったんですけれども、小さいお子さんを連れのお母さんたちを見ているとかなり受け身だなと。やってもらうのを待っているというか、こちらからこうですよと言うと、そうなんだということがすごく多かったなと思っておりまして、まずその方たちに、自分からやってみる、子どもがいる状態でどんなことができるかというのを探してほしいなと、すごくそのときに思っていたんですね。

なので、できれば、資料2の4ページ目に避難所生活体験とかがありますけれども、小さい単位で各団体、小学校区または中学校区、そういう小さいところで防災訓練であったり、避難所の生活体験であったり、そういうことを積み重ねて、まずその中で自分が何ができるかということにそれぞれ気づいていただきたいなというのは思っております。その中で、例えば地区のイベントであったり、区の中のイベントであったり、そういうものとタイアップできれば広報もできるし、そんな感じです。

そういう中で、中学校区であったり、小学校区であったり、子どもたちも一緒に経験することで、先ほどおっしゃっていましたが、リーダーになっていく人材の育成にもつながっていくんじゃないかと思っています。小さい単位で訓練をする中で横のつながりができ

てくると、小さい地域だけではなくて周りの地域も一緒になってつながっていける何かがあるといいなと思います。

成田委員長 やはり体験型重視、イベント等の積み重ねから、子どもたちの中からリーダー人材の育成を発掘していくという視点ということでお話ししていただきました。

続きまして、梶川委員、お願いいたします。

梶川委員 私も遅刻してまいりまして、すみませんでした。私も、やはり先ほどからいろいろお話が出ていますように、広報とかPRが大変大切だと思うんですね。区民会議としての取り組み方法をどうやったらいいかなということが1つと、私たち文化協会は公共の施設をいろいろ利用させていただいて活動していることが多いので、もしそこで災害が起きたりしたらどういうふうに対応するかとか、そういうのも心がけておかなければいけないと。いつ起こるかかわからないので、大勢の人が集まっていますので、何かそういうもののお手伝いとか、そういうものができたらいいかなと思っております。

それから、PRというのはやはりいろんなイベントがありますね。そういう場を活用して、区民会議だけじゃなくて一緒に活動していったらいいんじゃないかなと思います。

以上です。

成田委員長 続きまして、小野山委員、お願いいたします。

小野山委員 災害が起きた場合は、意識が低かろうが高かろうが被災して、動かなくてはいけないというところでまず自助活動が必要と。

PRで書いてあると思うんですけども、小杉ビジョンに関しても、各店舗のトイレに張ってある内容でも、意識が高い人に関しては繰り返し見ることでさらに意識が高くなっていくところだと思うんです。あと、低い人に関しても、繰り返し継続して見るということで、薄々ある危機感が明確化というか、意識化されて、そのときに自分がどう動くか。意識の低いまま生活をする人もいるだろうし、じゃ、何かをするといったときにイベントがあればということで、近くの身近に入れるイベントに参加する機会が目の前にあればいいかなと。いろんなところでイベントが開催されていますけれども、この前も運営部会で挙げたお話があって、フロンターレさんのサッカー教室と一緒に、大人からの介入が難しい場合は子どもからの介入というところで、フロンターレさんの憧れの人たちと一緒に何かをする機会、そこで抱き合わせてコラボして防災のお話、知識が普及できればなというところもあります。

あと、もう1つ気になったのが、木月小学校でなされている小学校2年生対象に何かしら防災的な、具体的なことですよね。道路で何かがあったときはどうする、倒れていたらどうする、そういうのはもし小学校の中で組み込めていければ、出向いて何かをするというのはどうしても人は面倒くさいと思うんですけども、強制的じゃないんですけども、学校で何かを与えられるというか、自然に入ってくるものであれば、授業の一環であったり、何かしらそういう機会があればなと。そうしたら子どもたちも自然に覚えてい

き、それから大人に波及していけばということで、いろいろ散らかしましたけれども、具体的に言えば、PRの内容というか、どこに何かを張るにしても、マップだけではなく目に入ってくる内容の検討が必要かなというのが1つ。

あとは、私はフロンターレさんとの教室、コラボがいいと思います。ぜひそういう機会
で、サッカーをできない子でも参加できるということを考えると、そうでしたよね。そう
なると、中原区の子どもたちが集まって、そこには親もついてきてと思うので、ぜひそう
いう機会が、大きなものをどかんとやっていただければいいかなというのが希望です。

成田委員長 フロンターレさんのサッカードリーム教室の件について、簡単に説明してく
ださい。

井上副委員長 きょうは何度もしゃべっていて大変申しわけないんですけれども、今の件
につきましては、前回の運営部会のときに、やはりなかなか興味を持ってくれない方たち
にどういうふうにこういうことを伝えていこうかというところで、区内のたくさん人が集
まるようなイベントでこういうことができればという御意見から始まっていまして、ちょ
うど私が担当なんですけれども、中原区役所さんと一緒に中原親子サッカードリーム教室
というイベントをここ数年やっています。これに関しては、区役所さんのほうで子どもた
ちに夢を持ってもらいたい、夢を持ってもらうためには、身近という言い方はおかしいん
ですけれども、子どものヒーローになっているような人たちとか、簡単に言ったら、サッ
カー選手であったり、芸能人とか、夢の職業の方たちに、しかも、自分の地域にそういう
方がいるというのが1つ中原区の強みなんじゃないかと。ありがたいお話で、川崎フロン
ターレをそういうふうに見ていただいたというところで、実際にその選手が試合をしてい
る場所で子どもたちがボールを蹴れて、加えてその選手からいろいろ話を聞こう、交流を
持とうというのを目的に、子どもたちに夢を持ってもらおうというところで例年実施して
います。

一番の強みとしては、ここに来る子どもたちが100%中原区民というところ、あと、こ
れは災害に興味を持っているというよりは、サッカー選手に興味があるとか、本当に試合
をしているなかなか中に入ることのできない芝生のピッチでサッカーができるというこ
ろに楽しみを持ってきてくれる人が何と500組1000名。厳密に言ったら1000人以上いるん
ですけれども、基本的には保護者の方は1人で来ないとか、家族構成からいくと兄弟がい
たりするので、毎年何だかんだいって1000名以上集まるところが強みなのかなと思ってい
て、それだったらこういうところで、先ほど内田さんが言っていたような避難訓練をやっ
てみようとか、避難所開設訓練をやってみようとか、そのほか簡易トイレをつくってみよ
うとか、あと、ユニバーサルというキーワードがあったので、車椅子の方が実際にどうい
う動きをしているのかというところで、陸上トラックを使って車椅子の体験をしよう
とか、そういう形を楽しみに来ている人たちにも参加してもらええるような環境がつかれるよ
ねということで話が出ていましたので、一応御報告しておきます。

時期については、10月14日か15日でサッカー教室をやろうという話になっていて、実際にそれだけの人数が入ってくるので、簡単に言ったら、全員が等々力の芝生のピッチに入れるわけではないので、1時間置きに分けてやって、計4時間ぐらいのイベントになっています。それで最後に選手が登場するという形なので、初めから来ている子たちは待っていないといけないという環境があるので、その空き時間に体験してもらえるのはすごくいい機会なんじゃないかということです。

成田委員長 ありがとうございます。皆様、参考になりましたでしょうか。

最後になりましたが、槁本副委員長、御意見をお願いいたします。

槁本副委員長 皆様からいろんな御意見をいただきました。全てが課題解決検討シートにのっとして、どれもこれも大事なものなのですが、いろいろ話を聞いた中で、資料1の下真ん中を見ていただくと、提案検討のポイントということで6つ載せています。区の特徴や現状、区民会議の取組として、緊急性・優先性、実現性、話題性、共感性といったようなことで、いろいろお話しいただいておりますイベント、フロンターレとの親子サッカードリーム教室ですか。この行事をもし取り入れるとなると、提案検討のポイント6つを兼ね備えているのかなという気がします。区民会議自体がお金がないので独自にお金を使うのは難しいとか、そういった面もこの行事でフロンターレさんのほうに任せさせていただければ、このような部分も解決するのかなと。また、世代を超えて参加もしていただけるというようなことから非常に効果があるのかなと私は感じました。

成田委員長 ありがとうございます。ここまで一通り皆様方の御意見を伺うことができました。皆様方の意見を総合しますと、まず意識の外にあるいわゆる防災についてをいかに意識させていくかにある。そのためには商店街、地域との連携、それから、子どもの側から親に向けての発信、いろんな体験型のシミュレーションを積み重ねていって、そこから防災について目を向けてもらおうといったような視点が結構出てきました。こうした部分を深めまして、時間の都合もありますので、発言はここまでとさせていただきたいと思います。

皆様からいただいた多くの御意見をもとに、引き続き課題調査部会で審議していきたいと思いますので、課題調査部会の皆様方、またよろしくお願いいたします。

4 その他

成田委員長 それでは、そのほか事務局から連絡事項はございますか。

事務局 では、事務局から事務連絡を2点ほどさせていただきたいと思います。

行き違いの方がいらっしゃったら大変申しわけないんですが、皆様に、区民会議交流会の御案内をさせていただいているかと思います。日時が2月6日、18時開会となっております。参加の御連絡をいただいた方には事務局からの連絡事項というペーパーをお渡ししているかと思います。参加の御連絡をいただいた方でまだこのペーパーをもらっていない

という方がいらっしゃいましたら、お手数ですが事務局まで御連絡をしていただければ幸いです。これが1点目、区民会議交流会についての御連絡でございます。

2点目が、中原区区民会議だより第29号についてでございます。たしか第1回区民会議が終わった後に皆様で集合写真を撮らせていただいて、それを区民会議だよりとして発行させていただいたかと思います。その次の号です。今まで議論していただいた内容を取りまとめさせていただいて、次号、29号として発行させていただきたいと思いますので、こちらはお知らせでございます。

以上でございます。

成田委員長 事務局からの件につきまして、何か御質問等がありますでしょうか。よろしいですか。

関口委員 1つお願いがあるんですけども、資料を、部会に所属している人はどんなことをやったかというのは議事録をもらわなくてもわかるんですよね。ただ、そうじゃない方が数名いらっしゃいますよね。ですから、時間的に余裕があると思うので、例えば来月課題部会が2回ありますけれども、次の区民会議はそれよりも1カ月先ですから、当日配るんじゃなくて、事前に配付していただいたほうがどんなことを論議されたのかというのがよくわかると思うんです。それを踏まえた上で来ていただいたほうがより会議の中身が充実するのではないかという気がするので、できればそういうふうにしていただきたいなと要望しておきます。

成田委員長 委員長からも同様に、資料の事前配付につきまして、できるだけ早い段階で事務局から御提示いただければと思います。特に議事録に関してですけれども、お忙しい中とは思いますが、実際にどういう議論が行われたのかということはある程度前もって把握したいと我々も希望しておりますので、その点、よろしく願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、ここで区民会議参与の皆様方に一言ずついただきたいと思います。本日の議論をお聞きいただきましてお気づきの点などの助言をお願いいたしたいと思います。

まず初めに、大庭参与、お願いいたします。

大庭参与 どうも皆様、お疲れさまでした。遅参してまいりまして、本当に申しわけございません。皆さんの御意見を聞くことができませんでした。資料を後で目を通していただいて、また次回、もし気がついたことがありましたら感想などお答えもしていきたいと思います。

ただ、大事なテーマで、「災害に強い、ユニバーサルなまちづくり」ということで、本当に重要な内容だというふうに受けとめています。ぱらぱらと見ましたら、熊本のことも書かれていましたが、私も熊本のほうに視察も行きましたし、先日は中原区のえぼっくで熊本の市長さんも来られて、あとで参加された方に伺ったら、本当に会場満杯で貴重な意見がたくさんあったというふうに伺っておりますので、そういったことも踏まえて、また

皆さんから御意見を伺いたいと思います。本当に申しわけなく思っております。また次回、皆さんの議論、本当に勉強させていただきます。ありがとうございました。

成田委員長 続きまして、重富参与、お願いいたします。

重富参与 きょうは最終的にこの中から選ぶという会だったと思うんですけども、ここでは決まらなかったということですね。また持ち帰ってということですね。

成田委員長 この中から、どこに視点を置きたいかということで、最終的には次の課題調査部会で絞り込んでいきます。

重富参与 ありがとうございます。どれになるんだろうというのをすごく楽しみにしていたので、また次回を楽しみにしたいと思います。

お話の中で出てきたものについては、それぞれのお立場の中で感じられたことは積極的に御発言いただいているようで、すごくよい会だったなと感じました。中原区役所さんのほうで全戸配布するというものについても議事録の中に出てきていて、恐らく全戸配布するだけだと余り周知されないから、それを区民会議で活用してあげるのも手かなというのは個人的に思ったりもしたんですけども、どれになるかまだわからないということだったので、この提案の中から、区民会議としてより積極的に活動ができるものが選ばれるといいなと思います。

あと、予算がつかないといういつもの話ですね。聞くと切なくなるんですけども、資料2の6ページの提案の中に、川崎区の海拔表示板というのがあって、これは区民会議の提案を受けて実施と書いてあるんです。なので、意外と区民会議が本当に行政を動かすことができるんだなというのはすごく感じました。恐らく私たち議員と同じで、本当に行政の方がなるほどそれはいいねと思うようなものであればきっと予算がつくんじゃないかと思います。さっき川崎区に確認したら、この表示板は83万円の予算がついたということだったので、本当によいものであれば、さらに区民会議と行政が協働できるんじゃないかと感じました。

ありがとうございました。また次回、よろしくお願いします。

松原参与 大変遅参をいたしまして、申しわけございません。委員会が延びたのと、団会議がありましてこの時間になってしまいました。皆様方の御議論の内容をよく承知、把握できませんので、また資料等々についてはよく目を通していただきたいと思います。

先ほど関口委員のほうから資料の事前配付というような話もございましたけれども、実は私たちも、各議員5つの常任委員会に分かれていますけれども、そこで議論する内容についても、一般の委員の方は当日いただくということでなかなか難しい状況であります。他都市を見ますと、少なからず委員会で議論をする内容については、資料は2日、3日前に配付されているというようなこともありますので、その辺については各委員の皆様には御配慮をしていただければと思います。

それと、私たち議員は災害があるとスマホに必ず、オクレンジャーというのをを使って、

自分たちがどこにいるのかということの安否確認が来ます。今までも何回か、9月1日の防災の日に限って練習しているのでありますけれども、これまで数回、何年かかかってやったんですが、去年初めて全員が返信を出したと。全員が、元気ですよ、ここにいますよというような返信をしたということが実現しました。

それと、議会のほうですけれども、今まで災害のたびに集中豪雨ですとかいろいろありましたけれども、議員それぞればらばらの行動をしておりました。地域の皆様方から、例えば今の地震被害はどうだったのかとか、この火災はどんなのかとか、いろいろな問い合わせが議員それぞれに来るのでありますけれども、去年の暮れでありますけれども、議会のほうでようやく、災害時における議員の行動指針のマニュアルをつくらせていただいて、万が一、災害に遭ったときには議員としてどのような行動をとるのかということ全員が共有できるようなシステムをつくらせていただきました。

3・11のときに私も区役所に参りました。区長さんが黒板を使って、この辺に被害があるとかいろいろなことをやっておりましたけれども、それはもう初めてのことであったのでなかなか効果が出なかったのでありますけれども、今回はそういったことも含めて、区役所と議員、地域の皆様が一体となって、災害のときにどういった行動をするかということを改めてつくらせていただいたということでございます。

それと、多分これは冒頭鈴木区長さんの話もあったのかなと思いますけれども、今、福田市長はいろいろな会合、新年会等に出るたびに、次年度については防災対策をしっかりやっていきますよというお話をされております。そして、今まで年に1回だった7つの区が持ち回りでやっていた防災訓練を、次年度から各区必ず1回はやってくださいと、1回に限らず何回でもいいですよ、そういった予算も考えていますよというような話がありましたので、来年度になりますと、今まで全市1回の大きな防災訓練をやっていたのが各区でそれぞれ必ず1回はやるということになると思います。その分についての予算もしっかり組んでいくと市長は言っておりますので、3月から予算議会も始まりますので、中原区選出議員団、その辺、中原区が区全体でどのような防災訓練を実施するかということについても、また皆様方の御提言をいただきながら、御示唆をいただきながら、何月何日の何時ぐらいにやるんだということも含めて御協議を賜ろうと思っておりますので、またよろしく願いいたします。

以上でございます。

成田委員長 どうもありがとうございました。ただいまいただきました3名の各参与の皆様方の発言は、今後の民会議運営の参考にさせていただきたいと思います。

そのほか、事務局から何かございますでしょうか。

事務局 それでは、日程の確認をさせていただきたいと思います。お手数ですが、参考資料4をお手元に御用意いただいてもよろしいでしょうか。

こちらは一覧表になっておりまして、左側の上から、区民会議、運営部会、課題調査部

会となっております。一番上、区民会議の第3回が1月26日となっていて、これが今回でございます。その次、第4回会議が3月23日木曜日、時間は2時半からとなっておりますのでよろしくお願いいたします。

あわせて、運営部会と課題調査部会についても確認をさせていただきたいと思います。運営部会は、第3回が、日程が幾つか並んでおりますけれども、3月9日木曜日となっております。運営部会委員の方は3月9日木曜日でお願いしたいと思っております。その下、課題調査部会は、次回、第3回が2月16日となっておりますので、課題調査部会の委員の方はお願いしたいと思っております。

事務局からは以上でございます。

成田委員長 ありがとうございます。

5 閉会

成田委員長 皆様に御協力いただきまして、円滑な議事を進めることができましたことに副委員長ともども深く感謝申し上げます。

以上をもちまして、第3回の中原区区民会議を閉会いたします。皆様、大変お疲れさまでした。

午後4時15分 閉 会